

小さい頃から大好きな 山木屋地区の皆さんに少しでも 笑顔になってもらいたくて

東京 2020 オリンピック聖火リレーランナー

うわべ しょう

上部 星＝山木屋＝

山木屋地区の
みんなの笑顔が見たくて

現在高校2年生の上部星さん。
中学3年生の時に東京2020オ
リンピック聖火リレーの話を知り、
応募したきっかけは山木屋地区に
あると言います。

「僕が、今回東京2020オリ
ンピック聖火リレーに応募した理由
は、僕が山木屋地区を聖火を持っ
て走ること、山木屋地区の皆さん
に笑顔になってもらいたいと思っ
たからです。

小学校1年生の頃に東日本大震
災が起こり僕たちは山木屋地区か
ら避難しました。まだ幼かった僕
にとって避難生活は少し不安があ
りました。しかし、避難先でも山
木屋地区の皆さんや友達がいてく
れたおかげで不安だった避難生活
も元気に乗り越えることができました。

今回はそんな皆さんに感謝の気
持ちを込めて走りたいと思い応募
しました」そう笑顔で話してくれ
ました。



川俣町スポーツ協会
とみお
菅野 富雄 さん

聖 火リレーの開催にあたり
山木屋に帰ってきたとい
う人たちが多数おり、久しぶりの
再会をととても嬉しく思いま
した。これからは復興は続くと思
いますが、「一区切り」という
意味で今回の聖火リレーが山木
屋地区で無事開催されて良かつ
たと思います。



川俣町ポリエステル媒地活用推進組合
ひでよし
安田 秀吉 さん

か わまたアンスリウムで聖
火リレーの会場を彩るこ
とができて大変嬉しく思いま
す。当初より目標にしてきたオ
リンピック本番の舞台でもかわ
またアンスリウムを飾り、少し
でも川俣町についてたくさんの
方に知ってもらえるように活動
していきたいと思っています。

緊張を忘れさせてくれた 友人との再会

3月26日、聖火リレー当日は緊張で本番前まで手も震えていたという上部さん。友人との再会によって緊張が笑顔に変わったそうです。

「山木屋小中学校へ向かう200メートルの間で祖父母や恩師、山木屋地区の皆さんの笑顔を見ることができました。残り50メートルくらいにさしかかった時にサポートランナーとして小さい頃からずっと同級生だった2人と合流したとき、自然と笑顔がこぼれたことを覚えています。聖火リレーが延期になって1年近く会ってなかった



△聖火を持って走る上部さん。

ので顔を見れて本当に嬉しかったです。聖火リレーのランナーであった僕はすぐ車で回収されたため友人と話すことは出来ませんでした。が、久しぶりに同級生3人が山木屋地区で揃うことができ、聖火リレーという大舞台で走ることができていい思い出になりました」と思い出の教室で友人たちとの思い出を振り返り微笑んでいました。

僕のふるさと・原点は
いつまでも「山木屋」

東日本大震災から10年。現在でも必ず月に1回は山木屋地区の祖父母の家に泊まるという上部さん。

今回聖火リレーのランナーとして山木屋地区を走る中で1つのある思いが浮かんだと言います。

「聖火リレーのランナーに応募したこと、将来の夢について考えたとき、やっぱり頭に思い浮かぶのは山木屋で過ごした日々や山木屋地区の皆さんのことで。僕のふるさととはここ山木屋だということ、僕の原点は山木屋にあるということとを今回聖火リレーのランナーとして山木屋を走ることによって改めて実感しました。将来スポーツインストラクターなどスポーツ関係の仕事に就くことを目標に勉強と部活両方頑張りたいです」そう力強く答えてくれました。

トーチは記念として
家に飾ってあります



アミーゴ・デ・川俣
ひろゆき
齋藤 寛幸 さん

今回、コスキンという川俣町ならではの音楽で、聖火リレーを盛り上げることができてとても嬉しく思います。川俣町らしさを出すために「町民の歌」「栄冠は君に輝く」「花祭り」を演奏しました。オリンピック開催で川俣町、日本の皆さんが元気になればと思います。



サポートランナー
みゆき
高澤 美雪 さん

これから先、オリンピックに関われる機会は少ないと思いサポートランナーに立候補しました。緊張しましたがサポートランナーとして走ることができて嬉しかったです。オリンピックも新型コロナウイルスに負けず開催してほしいと思いました。